

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	5	下から4行目	(根拠資料:2-1-d. H27_2・3年生教務関係オリエンテーションPPT)	(根拠資料:2-1-d. H27_2・3年生教務関係オリエンテーションPPT)
2	7	2行目	42単位(必修32単位、選択10単位)	32.5単位(必修22.5単位、選択10単位)
3	7	4行目	必須	必修
4	7	5行目	必須	必修
5	10	30行目	「診察法・診断学」	「国際保健医療論」
6	10	35行目	「実務実習事前学習」	「臨床心理学」
7	16	10行目	践的	実践的
8	16	29行目	解禁	皆勤
9	18	3行目	リハビリテーション 面 学部	リハビリテーション ン 学部
10	20	【現状】 4行目	必須	必修
11	20	【現状】 16行目	もっている。	行っている。
12	29	9行目	国際保険医療論	国際保健医療論
13	30	【現状】 3行目	必須	必修
14	32	19行目	全体の30%に	全体の30%を
15	33	1行目	10月6日	10月9日
16	34	【現状】 17行目	専任教員5名	専任教員4名
17	34	【現状】 17行目	(教授2名、講師2名、助教1名)	下線部削除
18	40	【現状】 2-3行目	実務家教員6名、その他の基礎系教員3名、実務実習支援室・・・	実務家教員4名、その他の基礎系教員3名、実務経験を持つ助手1名、実務実習支援室・・・
19	40	【現状】 23行目	実務家教員6名と専任事務・・・	実務家教員4名、実務経験を持つ助手1名及び専任事務・・・
20	46	【現状】 13行目	本学へ評価表を郵送していただいている。この評価表・・・	本学へ評価票を郵送していただいている。この評価票・・・
21	50	7行目	閲覧資料15	閲覧資料14
22	50	下から7行目	総合演習試験	演習総合試験
23	53	表6-1 第6学年次 参加型学習科目	チーム医療演習(10)	チーム医療研修(10)
24	64	【現状】 12行目	学生ハンドブック	学生生活ハンドブック
25	70	下から3行目	勤めている。	努めている。
26	72	【現状】 1行目	終了判定基準は	修了判定基準は
27	72	【現状】 24行目	終了判定を	修了判定を
28	73	13行目	「研究研修／チーム医療実習」	「研究研修／チーム医療研修」
29	74	【現状】 2行目	「研究研修／チーム医療実習」	「研究研修／チーム医療研修」
30	76	【現状】 2行目	学生ハンドブック	学生生活ハンドブック
31	78	【現状】 1行目	学習	学修
32	81	【現状】 2行目	～する規定に基づき(根拠資料:9-1-4-a ハラスメント防止規定)	～する規程に基づき(根拠資料:9-1-4-a ハラスメント防止規程)
33	81	【現状】 12行目	～に関する規定	～に関する規程
34	86	【現状】 4行目	消化器	消火器

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
35	89	【現状】 5行目3列目	薬剤師(8名うち実務家1名)	下線部削除
36	89	【現状】 6行目3列目	医師(6名)、薬剤師(31名のうち実務家8名、…)	医師(6名)、薬剤師(31名のうち実務家7名…)
37	89	【現状】 9行目	(16名以上の教授及び5名以上の…)	(16名以上の教授及び6名以上の…)
38	89	【現状】 13行目	(8名)	7名(うちみなし教員3名)
39	89	【現状】 16行目	教授及び5名以上の実務家…	教授及び6名以上の実務家…
40	90	4行目	そしてとなっている	下線部削除
41	91	【現状】 24行目	閲覧資料15	閲覧資料14
42	97	【現状】 14行目	捉えなおすことはことは、	下線部削除
43	99	【現状】 25行目	閲覧資料13	閲覧資料12
44	103	【現状】 18行目	P棟2階	P棟3階
45	107	【現状】 表12-1-1	共同研究:件数6 研究費4,700 受託研究:件数5 研究費17,855	共同研究:件数3 研究費3,000 受託研究:件数1 研究費11,869
46	109	【現状】 7行目	平成27年	平成26年

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
1	1-1	1	医療概論	教養教育科目	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
2			薬学入門	医療安全教育科目	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
3			早期臨床体験実習	教養教育科目	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
4	1-2	2	チーム医療概論	該当なし	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
5	1-3	3	看護論	該当なし	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
6			総合リハビリテーション論	該当なし	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
7			薬理学実習AB、CD	ヒューマンズ教育・医療倫理教育	該当なし
8			チュートリアルAB、CD	該当なし	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
9	1-4	4	(選)国際保健医療論	該当なし	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
10			コミュニティーファーマシー	生涯学習の意欲醸成科目	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
11			(選)救急・災害医療	該当なし	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
12			チーム医療論演習	該当なし	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
13	1-7	ヒューマンズ教育・医療倫理教育	合計科目数	9	19
14			合計単位数	17	27.5
15		教養教育科目	合計科目数	14	12
16			合計単位数	23	21
17		医療安全教育科目	合計科目数	7	6
18			合計単位数	13	12
19		生涯学習の意欲醸成科目	合計科目数	3	2
20			合計単位数	4	2
21	8	72	②設置基準において、必要な実務家教員数	5名	6名
22	10	74	6行目3列目	教授	教授 (実務家)
23	10	79	4行目3列目	講師	講師 (実務家)
24	10	79	5行目3列目	講師	講師 (実務家)
25	10	81	3行目と4行目の間		教員3名追加(表1)
26	10	83	4行目下		教員2名追加(表2)
27	15	149、150			削除
28	15	154次ページ			教員5名追加(表3)

表1

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号											
								科目名	毎週授業時間数																				
									講義		演習		実験・実習・実技			計													
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期			後期	通年									
医療薬学科	薬剤部	講師 (実務家)	むろ ちかあき 室 親明	男	59	1977/4/1	2010/2/1	実務実習事前学習	0.2					5.5	0.0	0.0	5.5	5.6	大阪薬科大学薬学部 学士(薬学)										
								処方解析演習																		0.2	0.0	0.0	
								計																					
医療薬学科	薬剤部	講師 (実務家)	すずき ひろし 鈴木 寛	男	58	1979/9/1	2002/4/1	実務実習事前学習						5.5	0.0	0.0	5.5	5.5	近畿大学薬学部 学士(薬学)										
								計																					0.0
医療薬学科	薬剤部	講師 (実務家)	ふじさわ ひろみ 藤澤 浩美	女	49	1991/8/21	2009/4/1	化学療法学						5.4	0.0	0.8	5.4	5.8	神戸女子薬科大学 薬学部 学士(薬学)										
								実務実習事前学習																					
								計																					0.0

表2

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授 業 科 目										年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数											
									講義		演習		実験・実習・実技			計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期			通年
医療薬学科	免疫学	助教	おおの よしや 大野 喜也	男	33	2008/4/1	2009/4/1	アカデミックリテラシー			3.0					3.0	0.0		102.8	近畿大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士(薬学)
								薬学入門			3.0					3.0	0.0			
								生物薬学実習AB					37.5		0.0	37.5				
								生物薬学実習CD					37.5		0.0	37.5				
								生理・解剖学実習AB				40.5			40.5	0.0	0.0			
								生理・解剖学実習CD (AB と合同3回分を引いた数)				36.0			36.0	0.0	0.0			
								病院実務実習						12.0	0.0	0.0	12.0			
								薬局実務実習						12.0	0.0	0.0	12.0			
								計	0.0	0.0	6.0	0.0	76.5	75.0	24.0	82.5	75.0	24.0		
医療薬学科	漢方医学	助教	わん しょうらん 王 勝蘭	女	36	2013/2/1	2013/2/1	薬学入門			1.5				1.5	0.0		0.8	兵庫医科大学 大学院医学研究科 博士課程医学専攻 修了 博士(医学)	
								研究実習						0.0	0.0					
								病院実務実習						0.0	0.0	0.0				
								薬局実務実習						0.0	0.0	0.0				
								研究研修						0.0	0.0	0.0				
								計	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0			0.0

表3

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	兵庫医療大学	講座名	臨床ゲノム薬理
職名	教授	氏名	東 純一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 大阪大学薬学部、医学部で臨床薬理の講義		昭和63年8月 ～現在	医・薬学における臨床薬理学の授業において、単なる情報の羅列では知識を生かす能力が身につかないため、実際の症例を提示し学生との討論の機会を増やし、学生がより知識を実地で使いこなす能力を身に付けるよう工夫を行っている。これにより、暗記中心だった部分が、知識の理解を重視するように改善し、学生の実践的能力がより向上した。
自ら得た研究成果（臨床ゲノム薬理学領域）を用いた教育の実践及び聴診器や携帯心電図計、血圧計等を用いた教育		平成21年4月 ～現在	薬学部における臨床ゲノム薬理学、臨床検査学の授業において、単なる情報の羅列では知識を生かす能力が身につかないため、実際の症例を提示、また聴診器や携帯心電図を駆使し、学生との討論の機会を増やし、学生がより知識を実地で使いこなす能力を身に付けるよう工夫を行っている。さらにこれまで得られたゲノム薬理学領域の成果を中心に最新の情報に基づく授業を行っている。これにより、暗記中心だった部分が、知識の理解を重視するように改善し、学生の実践的能力がより向上した。
2 作成した教科書、教材、参考書 医療薬学（分担：東京科学同人）		平成23年 改定版	現在医療薬学教育にあたっては実習においても患者の訴えを聞く機会が少なくないことから、医療薬学の教科書の中で、患者の訴えという観点から症候論を中心とした部分を担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等 の名称
92. Effect of basic fibroblast growth factor (FGF2) gene polymorphisms on SSRI treatment response and side effects.	共著	平成21年10月	Eur Neuropsychopharmacol. 2009;19(10):718-25
93. Influence of clinical and genetic factors on warfarin dose requirements among Japanese patients.	共著	平成21年11月	Eur J Clin Pharmacol. 2009;65(11):1097-103.
94. Simple and accurate determination of CYP2D6 gene copy number by a loop-mediated isothermal amplification method and an electrochemical DNA chip.	共著	平成22年4月	Clin Chim Acta. 2010;411(7-8):568-73.
95. 専門医のための精神科臨床リュミエール16: ニコチン受容体とタバコ依存	共著	平成22年7月	中山書店
96. ニコチン依存に関連する遺伝子は？	共著	平成22年9月	肥満と糖尿病(真興社). vol. 9. No. 5:705-707(2010)

表3

97. Cigarette smoke extract induces CYP2B6 through constitutive androstane receptor in hepatocytes.	共著	平成23年1月	Drug Metabolism and Disposition 2011. 39, 1-3
98. 禁煙治療薬の個別化適正投与方法確立に向けたゲノム薬理学的研究	共著	平成23年6月	臨床薬理の進歩 (臨床薬理研究振興財団) No. 32. p. 127-135 (2011)
99. Safe and successful treatment with erlotinib after gefitinib-induced hepatotoxicity: difference in metabolism as a possible mechanism.	共著	平成23年7月	J Clin Oncol. 2011;29(19):e588-90.
100. 特集 COPD ―生命予後の改善を目指して―、ニコチン依存の遺伝子解析	共著	平成23年10月	日本臨床 第69巻・第10号(通巻1007号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
75. ニコチン代謝酵素CYP2A6遺伝子多型のニコチン依存強度に与える影響		平成21年9月	第4回日本禁煙学会 学術総会(広島)
76. 科学的根拠に基づく禁煙支援に向けたニコチン依存形成に関するファーマコゲノミクス(ゲノム薬理学)研究:禁煙学会認定研究としての進め方について		平成21年9月	第4回日本禁煙学会 学術総会(札幌)
77. ニコチン代謝酵素CYP2A6遺伝子多型のニコチン依存度強度に与える影響		平成21年12月	第31回日本臨床薬理学会 年会(横浜)
78. IL-11 Ameliorates Cardiac Remodeling after Myocardial Infarction via STAT3 Pathway Activation in Cardiomyocytes		平成22年3月	第74回日本循環器学会総会・学術集会(京都)
79. IL-11は心筋STAT3活性化を介して心筋梗塞後心筋リモデリングを抑制する		平成22年3月	第83回日本薬理学会 年会(大阪)
80. 科学的根拠に基づく禁煙支援に向けたニコチン依存形成に関するファーマコゲノミクス(ゲノム薬理学)研究の進捗状況		平成22年9月	第5回日本禁煙学会 学術総会 (愛媛県、松山市)
81. Pim-1 kinase is required for endothelial differentiation of cardiac stem cells via STRT3 signaling pathway		平成22年11月	The American Heart Association Scientific Sessions 2010 (Chicago, Illinois, USA)
82. The Gene Polymorphisms of CYP2A6 and the Nicotinic Acetylcholine Receptor alpha4 Subunit Influence Nicotine Dependence		平成22年11月	The American Heart Association Scientific Sessions 2010 (Chicago, Illinois, USA)
83. 虚血再灌流障害におけるIL-11のpost-conditioning効果について		平成22年11月	第118回日本薬理学会 近畿部会 (大阪)
84. 喫煙による薬物代謝酵素CYP2B6誘導に対する核内レセプターCARの関与		平成22年12月	第31回日本臨床薬理学会 年会(京都)
85. Association of paraoxonase1 gene polymorphism with intima-media thickness(IMT) of the carotid arteries in Japanese type2 diabetic patients.		平成23年6月	THE 1st Asia Pacific Congress on Consensus in Diabetes, Obesity and Hypertension, Jun 2-5, 2011 (Shanghai China), 【Best Abstract Award受賞】
86. Association of paraoxonase1 gene polymorphism with intima-media thickness(IMT) of the carotid arteries in Japanese type3 diabetic patients		平成23年7月	第43回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2011年7月15日(札幌)
87. 喫煙者におけるニコチン代謝酵素CYP2A6遺伝子型判定の意義		平成23年10月	第61回日本薬学会 近畿支部総会・大会(神戸)
88. Interleukin-11 Attenuates Infarct Size And Improves Ventricular Function In a Canine Heart Model Of Ischemia /Reperfusion Injury		平成24年3月	第85回日本薬理学会 年会(京都)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

表3

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 兵庫医療大学	講座名	職名 講師	氏名 鈴木 寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年5月～ 平成25年3月	病院実習において、調剤室内での実習、座学のみでは処方意図、調剤における留意点を理解するのは難しいと考え、院内において薬剤師の関与する各部署に同行させ現場の業務を実体験させた。「①病棟でのベットサイド②オペ室の薬剤チェック③内視鏡・心臓カテーテル検査室にて医療現場を見学し、医師と討議④老人保健施設を見学、一般病棟との差異を実体験⑤褥瘡チームに同行させチーム医療の実体験等」
2 作成した教科書、教材		平成23年5月～ 平成23年6月～ 平成25年4月～	SB0 30 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。 SB0 31 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。 SB0 32 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。 SB0 33 疑義照会の流れを説明できる。 SB0 46 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。 兵庫医科大学病院薬剤部の学生実習計画書などの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年4月～ 平成23年4月～	神戸薬科大学・武庫川女子大学 OSCE試験評価者 兵庫医療大学 OSCE試験評価者
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)			
(著書)			
(論文)			
(論文)			
(論文)			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 兵庫県病院薬剤師会における中堅薬剤師研修会の取り組みについて		平成24年1月	第32回日本病院薬剤師会近畿学術大会
(演題名) 服薬指導シリーズ34 一骨粗鬆症について		平成26年4月	第60回神戸薬科大学リカレントセミナー
III 学会および社会における主な活動			
平成18年4月～平成26年3月	兵庫県病院薬剤師会 理事		
平成22年4月～平成26年3月	神戸薬科大学 嘱託非常勤講師（実務実習事前教育）		
平成22年4月～	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師（実習指導第08102107号）（6年間）		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名 講師	氏名 藤澤 浩美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 大学講義と実臨床の結びつけ 抗がん剤の実技指導、レジメン管理			化学療法学における大学での講義内容と実務実習における臨床指導をともに行うことで大学講義と実臨床内容を結びつけながら指導した。 アドバンスとして、抗がん剤の実技指導を行い、実際に調製体験できるようにした。また、がん薬物療法のレジメン管理指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 化学療法学テキスト		平成22年～現在	化学療法に講義内容をまとめた。また確認問題を作成し復習できるようにした。
配合変化テキスト		平成24年～現在	事前学習における注射薬配合変化について講義内容をまとめた。また確認問題を作成し復習できるようにした。
薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング帳		平成22年3月	医師の処方方針・処方意図、患者の病態・病因を理解し薬剤情報提供を行ううえで、処方解析の基礎を症例をあげ解説した。
薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニング帳		平成24年4月	患者面談による服用薬剤の処方意図、患者の病態・病因を理解し薬剤情報提供を行ううえで、処方解析の基礎を症例をあげ解説した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本病院薬剤師会がん専門薬剤師研修事業の講義 文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」主催		平成21年1月21日 平成21年12月19日	がん薬物療法について講義を行った。 がん専門薬剤師インテンシブコース～がん治療における薬剤師の新しい展開について講演した
4 その他教育活動上特記すべき事項 レジデントの受入れ がん専門薬剤師研修事業の受入れ 兵庫乳癌チーム医療研究会の講師 薬学生の長期実務実習受け入れ 兵庫乳癌チーム医療研究会 兵庫医科大学病院医師への抗がん剤取り扱いと調製についての講義 兵庫医科大学ガンセンター勉強会の講師 兵庫県病院薬剤師会「兵病連携セミナー」の講師		平成20年4月～現在 平成21年1月8日～平成21年3月28日 平成21年12月15日 平成22年5月～現在 平成22年6月19日 平成22年9月9日 平成24年6月29日 平成25年1月19日	がん薬物療法における抗がん剤調製、レジメン管理、副作用と支持療法について指導した 日本病院薬剤師会が実施するがん専門薬剤師研修生の受け入れを実施した。各種癌領域における薬剤管理指導、臨床試験、薬物療法管理、抗がん剤調製、緩和医療等について指導を行った。 兵庫乳癌チーム医療研究会で外来化学療法について講演した 兵庫医科大学薬学部、武庫川女子大学薬学部、神戸学院大学薬学部、神戸薬科大学薬学部等における長期実務実習を受け入れ、学生指導を実施した。 乳癌薬物療法における発熱性好中級減少症について講演した。 抗がん剤の取り扱いと調製上の注意点について講義を行い、講義ビデオを作成し聴講できるようにした。 兵庫医科大学がんセンター勉強会において、レジメン上の注意点について講義を行った。 がん薬物療法と支持療法について講義した。

表3

Meiji Seika ファルマ株式会社株式会社への社内研修講義	平成25年6月3日	がん薬物療法における薬剤師の取り組みについて講義した。	
兵庫医科大学 第12回兵庫医大フロンティア医療セミナーの講師	平成25年7月11日	外来化学療法室における薬剤師の役割について講演した。	
Cancer Net Japan HER2陽性乳がん患者さんに対する情報発信セミナーin大阪	平成25年11月17日	HER2陽性乳がん患者またはその家族を中心とした公開講座において、HER2陽性乳がん患者に使用される薬剤の副作用とその対策について講演した。	
兵庫県病院薬剤師会「第4回 中小病診部研修会」講師	平成25年12月14日	乳癌薬物療法と閉鎖式調製器具を用いた暴露対策について講義した。	
武庫川がん薬薬連携勉強会	平成26年3月25日	薬薬連携における問題点と今後の課題について講演した。	
兵庫県病院薬剤師会 医療薬学セミナー神戸「抗がん剤の服薬マネジメント」	平成26年10月16日	がん患者指導料3の算定に伴い、その取り組み方法について講演した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
薬剤師が発信するがん薬物療法のエビデンス	共著	平成21年10月	じほう社
薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング帳	共著	平成22年3月	化学同人
薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニング帳	共著	平成24年4月	化学同人
輸液ポンプ使用時のパクリタキセル注射溶液の点滴速度に影響する要因について	共著	平成20年	日本医療薬学会、医療薬学、34
乳がん化学療法FEC100におけるG-CSF製剤の使用評価	共著	平成21年	日本医療薬学会、医療薬学、35
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
兵庫医科大学における外来化学療法室の現状と課題		平成21年3月	第7回日本臨床腫瘍学会学術集会
膀胱がんM-VAC療法における全身投与と動注投与の副作用の比較		平成21年7月	第17回クリニカルファーマシーシンポジウム
薬剤師によるプライミングも含めた抗がん剤調製における「ケレーブ®オンコロジーシステム」の評価		平成21年10月	第19回日本医療薬学会年会
抗がん剤投与時の点滴速度に及ぼす容積制御型輸液ポンプの影響		平成22年11月	第20回日本医療薬学会年会
シスプラチン外来化学療法における腎機能評価による設計への薬剤師の介入		平成22年11月	第20回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年1月1日～平成30年3月31日	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師		
平成22年4月1日～平成28年3月31日	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師		
平成22年4月1日～平成28年3月31日	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師		
平成22年9月1日～平成31年12月31日	日本医療薬学会がん指導薬剤師		
平成23年1月1日～平成27年12月31日	日本医療薬学会がん専門薬剤師		

表3

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名 講師	氏名 室 親明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			実務実習にアドバンスとして、災害や治験、抗がん剤の調製を加えた
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			抗がん剤調製実習(兵庫県病院薬剤師会) 薬学部6年制実務実習・当院における実習への取り組み(PC研究会)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング帳	共著	平成20年3月	化学同人
(著書) 薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニング帳	共著	平成22年4月	化学同人
(論文) 実務実習性に対する災害医療演習の取り組みとその評価	共著	平成25年5月	日本病院薬剤師会雑誌 51巻5号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
炎症性腸疾患患者へのインフリキシマブ投与における即時性のinfusion reaction発現の因子に関する検討		2013.9	第23回日本医療薬学会
肺がん患者における血清カルシウム値低下に影響を及ぼすリスク因子に関する検討		2013.9	第23回日本医療薬学会
経管投与時における安全な抗がん薬治療の推進に向けた簡易懸濁法の適応性評価		2014.6	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム 医療薬学フォーラム
小児におけるフェブキシスタットの有効性および安全性の検討		2014.9	第24回日本医療薬学会年会
カスポファンギンによる肝機能障害発現のリスク因子に関する検討		2014.9	第24回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	兵庫県病院薬剤師会西宮支部 支部長		
平成24年4月～現在	兵庫県病院薬剤師会理事		

表3

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	兵庫医療大学	講座名	衛生化学
職名	助教	氏名	佐藤 江利子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) CBT対策用演習・模試の実践 薬剤師国司対策用演習・模試の実施		平成21年10月 ～現在 平成23年4月 ～現在	CBT対策として学習を促進させるため、食品衛生学に関する演習プリント、模試問題を作成している。 薬剤師国家試験対策として、環境衛生、食品衛生、微生物学に関する演習プリント、模試問題を作成している。
2 作成した教科書、教材、参考書 新ウェルネス栄養学 生物薬学実習書 衛生薬学実習書		平成22年 平成20年4月 ～現在 平成21年4月 ～現在	医療系、栄養、保育の分野を志望する人を対象とし、栄養素、機能性食品に対する基本的知識、日常生活に応用できる具体的な摂取量と消費量のバランス、臨床食事療法に関する執筆を分担した。 生物薬学実習で用いる教材で、タンパク質の抽出、精製、活性測定について執筆を分担した。 衛生薬学実習で用いる教材で環境衛生学・食品衛生学の実習の執筆を分担した。学習効果を上げるために学生が記入できる方式とした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 生物薬学実習の指導 衛生化学Ⅱ(栄養・食品衛生学)の講義 衛生薬学実習の講義および指導		平成20年10月 ～現在 平成20年10月 ～現在 平成21年4月 ～現在	兵庫医療大学薬学部にて、学生の実習講義を担当し実験指導を行った。 兵庫医療大学薬学部にて、衛生化学講義(栄養・食品衛生学)を一部担当している。 兵庫医療大学薬学部にて、学生の実習講義を担当し実験指導を行っている。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等 の名称
12. Electrostatic force microscopy: Imaging DNA and protein polarization one by one	共著	平成21年	Nanotechnology 20, 145102-7
13. Profiling of gene-dependent translational progress in cell-free protein synthesis by real-space imaging	共著	平成21年	Anal. Biochem. 394, 275-280
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
33. ナノマテリアルの生体影響(1) 非晶質ナノシリカと染色体の実空間観察		平成22年9月	フォーラム2010: 衛生薬学・環境トキシコロジー(星薬科大学)
34. 和歌山県のイノシシに高率に寄生が認められたBabesia gibsoniに近縁のBabesia属原虫		平成22年11月	日本寄生虫学会 西日本支部大会(岡山大学)
35. ナノマテリアルの生体影響(2) ナノシリカを処置した細胞の実空間観察		平成22年12月	BMB2008(第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会)(神戸ポートアイランド)

表3

36. 和歌山県の野生動物に寄生するバベジア属原虫の調査報告 —アナグマに寄生するBabesia microtiに近縁の原虫を中心に—	平成23年7月	第80回日本寄生虫学会大会 (東京慈恵会医科大学)
37. 酸化亜鉛ナノ粒子の抗菌作用に関する研究	平成23年8月	日本防菌防黴学会 第38回年次学会 (千葉ライフサイエンスセンター)
38. 介護器具等の消毒を目的とした高温消毒装置の開発	平成23年8月	日本防菌防黴学会 第38回年次学会 (千葉ライフサイエンスセンター)
39. バイオ分子の分極画像化	平成23年12月	第8回バイオプティクス研究会 (北里大学)
Ⅲ 学会および社会における主な活動		